（施策評価表64）

【施策番号Ⅳ－13－①－2】

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦　略	【戦略13】環境を豊かに ～環境意識と行動を高めていきます～ ①生活と自然との共生	主な施策	◆有明海・八代海を再生する ～有明海・八代海の再生に向けた取組みの強化～

1 取組内容	2 主な事業（上段：H25事業 下段：H24事業）	担当課	H25予算（千円） H24決算（千円）	3 平成24年度の主な成果	4 平成25年度の推進方針・推進状況	5 施策を推進する上での課題	6 今後の方向性
・ 有明海、八代海の再生のため、森林の整備・保全、生活排水対策、海域環境の保全など、国や市町村、NPOなどとも連携した川上から川下にかけた一貫した対策を強化します。	有明海・八代海再生推進連携事業	環境立県推進課	782 594	・市町村・NPO等とも連携して実施している川と海の清掃活動、「くまもと・みんなの川と海づくりデー」に47,822人が参加した。 ・H20年4月に事業場の排水規制を強化した県条例に基づき、H24年度は、排水規制の対象となる延べ350事業場に立入検査を実施。基準不適合となった７事業場に改善指導を行った。 ・水質の監視測定を行い、環境基準の達成状況を把握した。 ・森林環境保全整備事業により、植林750ha、下刈り3,504ha、間伐等3,269haの森林整備が進んだ。また、針広混交林化促進事業により、932haの強度間伐を実施し、多様な森林整備を造成した。 ・森を育てる間伐材利用推進事業により、間伐材の搬出を支援し、間伐の推進（2,260ha、61,121㎥）に繋がった。 ・1,682基の浄化槽設備（個人設置型）の整備が進んだ。 ・H24年度末の汚水処理人口普及率は速報値で約82%。 ・有明4県クリーンアップ作戦では、漁業者を中心に5,500人が参加し、２トントラック365台分のゴミを回収した。また、海底清掃を実施し、海底から1.3トンのゴミを除去した。 ・県内2か所（荒尾市沖、宇土市沖）の水深20m前後の海底の耕うんを行い、耕うん前後での生物量や底質の変化を調査した。 ・有明海、八代海の漁場整備として、覆砂（58ha）や耕うんを実施し、アサリ等の資源回復を図った。	・NPO等とも連携した協働発表会の開催や出前講座を実施し、県民に対し地域の現状や再生についての啓発活動を行う。 ・事業場の排水規制について立入検査を引き続き行い、必要な改善指導を行う。 ・環境基準の達成状況を引き続き把握していく。 ・森林環境保全整備事業及び針広混交林化促進事業等により、植林、下刈り、間伐等の森林整備を推進していく。 ・閉鎖性水域である有明海･八代海における水質浄化を図るため、「くまもと生活排水処理構想2011」（H23～32年度）に基づく下水道や集落排水、浄化槽などの整備を積極的に進める。 ・下水道等への接続を促進するための緊急的措置として、生活排水適正処理重点事業を新設。H25年度から３年間を重点期間と定め、接続率が80%未満の17市町村を対象に、市町村が県民への助成制度を新設・拡充する場合にその額の1/2を補助する。 ・地域の元気基金を活用し、「生活排水処理施設整備事業」を新設。H26年度までの２年間で、生活雑排水を未処理のまま放流する県有施設36施設に合併浄化槽を整備する。 ・8月下旬に有明4県クリーンアップ作戦を実施するほか、7月には海底清掃を実施した。 ・県内2か所（長洲町沖、熊本市沖）の水深20m前後の海底の耕うんを行い、耕うん前後での生物量や底質の変化を調査する。 ・有明海、八代海の漁場整備として、覆砂や耕うんを実施しアサリ等の資源回復を図る。	・日本一閉鎖性が高い有明海及び八代海は、海水の入れ替わりが悪く、生活排水等による陸域からの影響を受けやすいため、水質の富栄養化や底質の泥化、有機物の堆積など海域の環境が悪化しやすく、近年、漁獲量の低迷や赤潮が発生するなどの状況が続いていることから、これらの対応を進める必要がある。 ・県民の多様なニーズを踏まえ、森林の持つ公益的機能の発揮するため、多様な森林の整備を進める必要がある。 ・間伐の目標値の達成に向け、森林施業の低コスト化を推進し、森林所有者の負担軽減を図ることが必要である。 ・「くまもと生活排水処理構想2011」に基づき、H27年度までに汚水処理人口普及率を約85%に向上させるとともに、有明海・八代海の水質向上のために、下水道で雨水と汚水に分ける分流化も含めた合流改善を行い、環境基準達成率を94%まで向上させる。 ・整備ストックの確保が進んできたため、下水道等への接続率の向上、個人管理の浄化槽の維持管理の徹底など、「量から質への転換」も必要である。 ・人口減少や少子高齢化、地方自治体の財政状況悪化などから、生活排水処理対策が集合処理施設から個別処理施設に移行する傾向にあるため、浄化槽の保守点検、清掃、法定検査が適切にできるような維持管理体制の構築が必要である。 ・クリーンアップ作戦では、より多くの住民の参加を得ることにより、海域環境保全の機運を高めることが必要である。 ・より効果的な海底耕うん方法を把握するために、耕うん方法や解析方法に改良を加え、その効果について検証する必要がある。 ・より効果の高い覆砂材や覆砂に替わる漁場造成方法の探索が必要である。	・「有明海・八代海再生協働発表会」、「出前講座」及び「くまもと・みんなの川と海づくりデー」の参加者を増加させる。 ・水質の監視測定を継続して実施する。 ・適正な森林管理の推進により多様で健全な森林の育成を図る。間伐実施面積を14,500ha／年とする。 ・「くまもと生活排水処理構想2011」に基づき、H27年度までに汚水処理人口普及率を約85%に向上させるとともに、有明海・八代海の水質向上のために下水道で雨水と汚水に分ける分流化も含めた合流改善を行い、環境基準達成率を94%まで向上させる。 ・東日本大震災の被害を教訓に、県の下水道BCP（業務継続計画）を完成させ、市町村と連携した災害時下水道対応計画を準備するとともに、耐震化を含めた下水道施設の長寿命化計画の策定と改築更新を推進する。 ・下水道等への接続率や浄化槽の法定点検受検率の向上、下水道未利用エネルギーの有効活用等を推進する。 ・より多くの漁業者や地域住民、関係団体の参加の下、クリーンアップ作戦を継続する。 ・海底耕うんについては、平成26年度まで、調査を継続して実施し、これまでの結果も踏まえて解析を行うことで、効果的な方法を検証する。 ・漁場生産力向上のための漁場造成により、漁業生産量の維持・増大を図る。
	有明海・八代海再生活動促進事業	環境立県推進課	1,041 505				
	水質汚濁規制費	環境保全課	3,551 2,836				
	水質環境監視事業	環境保全課	24,846 17,091				
	森林環境保全整備事業	森林整備課	1,479,870 2,259,663				
	針広混交林化促進事業	森林整備課	318,000 284,586				
	森を育てる間伐材利用推進事業	林業振興課	114,545 120,795				
	流域下水道事業	下水環境課	2,233,636 3,450,924				
	浄化槽整備事業等	下水環境課	505,657 251,211				
	集落排水事業	下水環境課	143,978 134,242				
	水域環境クリーンアップ事業	水産振興課	2,214 2,214				
	有明海再生・技術開発事業（うち、有明海特産魚介類生息環境調査）	水産振興課	45,000 45,000				
	水産環境整備事業	漁港漁場整備課	450,300 551,532				
		主な施策のまとめ		●「くまもと・みんなの川と海づくりデー」に47,822人が参加。 ●排水規制の対象となるのべ350事業場に立入検査を実施し、基準不適合となった７事業場に改善指導。 ●1,682基の浄化槽設備（個人設置型）を整備。 ●有明4県クリーンアップ作戦に、5,500人余りが参加。 ●有明海の４ｋ㎡(2か所)で海底耕うんを実施。	●下水道等への接続を促進するための緊急的措置として、生活排水適正処理重点事業を新設。H25年度から３年間を重点期間と定め、接続率が80%未満の17市町村を対象に、市町村が県民への助成制度を新設・拡充する場合にその額の1/2を補助。 ●7月に海底清掃、8月下旬に有明4県クリーンアップ作戦を実施。 ●有明海・八代海の漁場整備等を継続実施。	●全国平均より低い汚水処理人口普及率と汚水適正処理率の向上。 ●効果が高い漁場造成方法の探索。	●「くまもと生活排水処理構想2011」に基づき、汚水処理人口普及率を約85%に向上。 ●有明海・八代海の水質向上のために、下水道で雨水と汚水に分ける分流化も含めた合流改善を行い、環境基準達成率を94%まで向上。 ●水産資源の維持・増大。